

令和7年度 第5回 経営協議会議事録

日 時：令和8年3月16日（月）13時30分～15時40分

場 所：本部棟5階大会議室 ※Web会議併用

出席者：湊総長（議長）

天野委員、安藤委員、伊藤委員、上田委員、江上委員、島川委員、多田委員、
玉尾委員、出口委員、中西委員、波多野委員、平野（俊）委員、平野（信）委員、
牧委員、町田委員、松井委員、馬淵委員、森委員、山口委員

欠席者：岩井委員

オブザーバー：山口監事、吉貴監事

- 令和7年度第4回経営協議会の議事録（案）について、確認のうえ、原案どおり承認された。

【議 事】

1. 執行部の体制について

令和8年4月1日付けで任命予定の理事について説明があり、意見を聴取した。

2. 国立大学法人京都大学の組織に関する規程等の一部改正について

現在の事務本部、教育院等（機構）、事業推進組織の区分を解消のうえ支援組織に再編すること、並びにヒト行動進化研究所及びグローバル・エンゲージメント・オフィスを設置することに伴い、国立大学法人京都大学の組織に関する規程の一部を改正する旨説明があり、審議の結果、了承された。

委員による主な意見は次のとおり（○：質問・意見、●：説明・回答）

- ：新たに設置されるヒト行動進化研究所において実施する研究について、従来のセンターで主たる内容としていた脳科学研究の視点で方向性が決まっていれば教えてほしい。
- ：同研究所の主要な研究集団はヒトの脳科学研究であり、将来的には関連領域へ研究を広げることも想定されるが、当面はヒトの脳科学を集中的に研究する。将来的には類似の研究組織とも共同して脳科学研究全般をどのように大きな研究領域（デパートメント）にしていくかということが課題である。
- ：国際卓越研究大学のこともあるが、それだけでなく京都大学としてあるべき方向に向けて大きく変わろうとしているため、その成果や効果を折に触れてアピールしてほしい。
- ：単なる数値的な KPI だけでなく、作成中のビジョンや戦略を踏まえてどの程度それを達成しているのかということを適切に示しながら進めていきたい。

3. 令和8年4月からの国立大学法人京都大学教職員給与規程の一部改正について

人事制度の整備等に伴い、各種規程について所要の改正を行う旨説明があり、審議の結果、了承された。

4. 令和8年度予算（案）について

令和8年度予算（案）について説明があり、審議の結果、了承された。

委員による主な意見は次のとおり（○：質問・意見、●：説明・回答）

- ：デパートメント制移行への支援経費について、具体的な内訳や見据えている

成果・効果を教えてほしい。

- ：デパートメント形成のプロセスで必要となる人や施設・設備等に対して、本部から前倒しで支援を行い、新しい研究組織の形成をファシリテートするための予算である。
- ：今後、経営における知的財産の位置づけが非常に大きくなる。維持経費もかかり、知財をオープンにするのかノウハウとして秘匿にするか等の知財戦略は経営方針に直結する。知財の位置づけや複数年を見据えた戦略的な体制整備をお願いしたい。
- ：知財については成長戦略本部で一括管理し人員も割いており、今後も同本部を拡充していく方針である。知財の管理・維持・ライセンスは大きな課題であり、人員の手当てが重要であると考えている。
- ：病院の収益が大きく伸びているが、この要因はどのように捉えれば良いか。
- ：日本の大学病院の中でも有数の規模を誇る ICU を新型コロナウイルスの患者対応に転用するなどしていたが、コロナ禍の影響が落ち着き、手術件数の増加など、コロナ禍前に想定していた急性期対応ができるようになってきたことが大きい。また、病院長のリーダーシップによる病床の有効管理、救急を含む応需率の向上並びに清掃回数などの委託業務の見直しといった構造改革が飛躍的な収支改善に寄与したと考えている。
- ：世界情勢の激変に伴い、医療資材や研究資材の高騰が懸念される。中長期計画とは別に、緊急の資材確保に向けた戦略的な対応をお願いしたい。
- ：資源の高騰に関する懸念はご指摘のとおりであり、デパートメントという領域を支援するという趣旨は、必要な支援が研究者に直接届くような研究資源のアロケーションを行う体制をとりたいということである。

5. 特定研究成果活用支援事業の実施に必要な資金の出資認可申請について

産業競争力強化法に基づき、文部科学大臣及び経済産業大臣の認定をうけた特定研究成果活用支援事業（イノベーション京都 2026 投資事業有限責任組合）の実施に必要な資金について、国立大学法人法に基づき、文部科学大臣に出資認可申請することについて説明があり、審議の結果、了承された。あわせて、出資額の決定については、総長、役員会に一任することについて、審議の結果、了承された。なお、上田委員、平野信行委員及び森委員は、利害関係人のため、この議決に参加しなかった。

6. 令和8年度資金管理計画（案）について

令和8年度資金管理計画（案）について説明があり、審議の結果、了承された。

7. 新たな拠点の設置について

新たな拠点の設置に係る方針について説明があり、審議の結果、了承された。

委員による主な意見は次のとおり（○：質問・意見、●：説明・回答）

- ：この拠点で何を行っているのかがわかるテーマの設定、外国人や海外との連携のきっかけづくり、そして国内外から京大に行きたい人を増やすための情報拠点としての活用方法を議論してほしい。
- ：海外の若者が出入りするような活気ある場を目指しており、今後アイデアをいただきながら有効活用したい。
- ：優秀な人材や若い学生を確保するための「入り口」として活用し、開設当初に多くの人々が新たな拠点を京都大学がどのような場として発信しようとして

いるかということがイメージできるように、目に見える形で準備を進めるとより効果的である。

- ：ご指摘の通りであり、今後さらに皆様のアイデアをいただきながら準備を進めていきたい。

【 報 告 】

1. 運営方針委員の任命について

令和8年4月1日付けで任命予定の運営方針委員について、報告があった。

2. 経営協議会委員の任命について

令和8年4月1日付けで任命予定の経営協議会委員について、報告があった。

3. 国際卓越研究大学を見据えた財政運営について

国際卓越研究大学に認定された場合の助成金交付の仕組みについて説明があり、今後大学の財政運営上、必要と考えられる取組みについて、報告があった。

委員による主な意見は次のとおり（○：質問・意見、●：説明・回答）

- ：国際卓越研究大学に認定されることにより、予算が大幅に増える場合の対応方法については今後検討していく必要がある。
- ：研究、教育、事業・財務戦略の各プログラムに資源配分を行う必要があるが、初期は特に研究に対して重点的に投資を行う必要があると考えている。
- ：国際卓越研究大学計画の担い手（人材）の確保が非常に重要である。
- ：人材確保については、博士人材確保も含めてHR戦略オフィスが全学統一で専門職や事務系職員の公募を行い、中長期的には海外派遣を通じた人材育成も進めていく。
- ：独自基金を造成するとのことであるが、基金を活用した新たな取組は検討しているのか。
- ：基金造成については、25年後に助成金の交付が終了した際に、自前の資金で強い研究力を維持できるよう、自立した体制を作ることを目的としている。
- ：京都市として、クリエイティブな海外の研究者や留学生を京都に招き入れたいため、市有不動産施設の有効活用やインターナショナルスクールの誘致などにおいて、京大のブランド力を活かした連携を深めたい。
- ：インターナショナルスクールについては既に連携を進めている。海外からの人材定着は大学にとっても大きな関心事であり、京都にあるアドバンテージを最大限に活かし、府・市や産業界と密に連携して取組みを進めたい。
- ：研究だけでなく、学生に視点を当てた計画もぜひ考えてほしい。
- ：部門ごとの大学院学位プログラムや学部のリベラルアーツ教育について、教育改革戦略本部を設置して議論を進めている。